



ふるさと名物
Furusato Meibutsu

ふるさと名物応援宣言

“『落語「鯉沢」』の舞台”の「落語のまち」
～たくさんの人が訪れる笑顔あふれる町となるために～

平成27年8月27日



富士川町

地域のプロフィール

- ▶ 富士川町は、甲府盆地の南西部に位置し町内を日本三大急流の一つ、富士川が流れ江戸時代より甲斐国と駿河国を結ぶ富士川舟運の要所であり物流・文化交流の拠点として栄えてきました。
- ▶ 落語「鰍沢」は近代落語の祖、三遊亭円朝が江戸時代、庶民の間で流行した身延参詣を背景に、富士川町を舞台に三題噺で創作したとされる古典落語で、六代目三遊亭円生、八代目林家正蔵、十代目金原亭馬生ら数々の名人が得意演目とした人情話の大ネタとして知られています。
- ▶ しかし、以前は、当地でも名前は聞いたことがあるが、実際に落語を聞いたことのある人は少ないといった状況でした。
- ▶ そこで、15年ほど前から地元商店街の若手グループが中心となり、東京から人気落語家を招いて「鰍沢で落語鰍沢を聴く会」を開催するなど、落語をキーワードにした地域活性化に取り組んでおり、当地において落語が文化として定着してきたところです。
- ▶ さらに、現在、町内の多くの事業者等が連携して、「落語を核とした新たな体験型プログラムならびに関連商品の開発・販売と、『落語のまち』としての富士川町のブランド化」に、一般社団法人落語協会や地元大学などの協力のもと、取り組もうとしています。

ふるさと名物の内容

- ▶ 「落語のまち」の観光体験型プログラム
 - ▶ “『落語「鯉沢」』の舞台”である富士川町が、「落語のまち」としてたくさんの方が訪れる笑顔あふれる町となるために、一般社団法人落語協会等の協力のもと、落語の世界を迫体験できる観光体験型プログラムを提供していきます。
 - ▶ 大好評の「落語家と行く“『落語「鯉沢」』の舞台”をめぐる旅」に加え、ゆずや西洋なしなど地域の特産品と組み合わせた観光体験ツアーなどを提供していきます。
- ▶ “『落語「鯉沢」』の舞台”を活かした商品
 - ▶ “『落語「鯉沢」』の舞台”である富士川町では、「落語のまち」として、“『落語「鯉沢」』の舞台”の特徴を活かした魅力的な商品を、地域の事業者の創意工夫のもと、開発・提供していきます。
- ▶ 応援していくにあたって
 - ▶ 落語「鯉沢」が三題噺であることの特徴を活かして、「落語のまち」の落語の世界を拡げていきます。
 - ▶ 町では町内の事業者のこうした取り組みを応援します。

町の取り組み

▶ 落語を取り入れた町の取り組み

- ▶ 旧町時代から、旧増穂町主催「まほらの森笑劇場」として落語に親しんでいただけてきました。
- ▶ 近年は富士川町、富士川町教育委員会主催による熱血こどもらくごワークショップを開催し、「落語ってなあに？おしゃべり上手になりたい。」そんな子どもたちが体験を通して気軽に落語に親しむ機会を提供しています。

▶ 身近な歴史文化資源の活用

- ▶ 富士川町は、“『落語「鯉沢」』の舞台”として栄華の歴史を感じる町です。
- ▶ 「落語のまち」富士川として、“『落語「鯉沢」』の舞台”をめぐる旅への支援や、商店街で行う取り組みへの支援を行い、町内外への情報発信に努めています。
- ▶ 今後はふるさと納税への感謝特典品として落語関連型商品も取り入れていきます。

▶ 落語鯉沢実行委員会への協力

- ▶ 「落語のまち」富士川のブランド化をすすめる落語鯉沢実行委員会に協力します。

▶ 富士川落語祭の開催

- ▶ 三題噺シナリオコンクール最優秀作品の口演、落語家による落語会、学生や社会人落語会の発表会、子ども落語の発表会など、様々な層の落語の口演を行う「富士川落語祭」の開催に向けた取り組みをすすめます。

『落語「鯉沢」』の舞台

①富士川町の景色



『落語「鯁沢」』の舞台

② 妙法寺と毒消しの護符



『落語「鯉沢」』の舞台

③法論石



ちびっこ落語会の様子

